

令和7年度 佐賀大学2次試験後期日程(数学問題)

理工・農学部 令和7年3月12日

- 理工学部 [1] [2] [3] [4] 数I・II・III・A・B・C (120分)

- 農学部 [1] [2] [5] [6] 数I・II・A・B・C (120分)

[1] 4人でじゃんけんを1回行い、その結果により、次の①、②、③のいずれかを行う。

- ① 1回目のじゃんけんで1人だけが勝ったとき、2回目のじゃんけんは行わない。
- ② 1回目のじゃんけんで勝った人が2人以上のとき、勝った人たちだけで2回目のじゃんけんを行う
- ③ 1回目のじゃんけんで誰も勝たなかったとき、4人全員で2回目のじゃんけんを行う。

このとき、次の問に答えよ。

- (1) 1回目のじゃんけんで1人だけが勝つ確率を求めよ。
- (2) 4人全員で2回目のじゃんけんを行う確率を求めよ。
- (3) 2回目のじゃんけんで1人だけが勝ったとき、1回目のじゃんけんで2人だけが勝っている条件付き確率を求めよ。

[2] 白玉と赤玉が入っている袋について、次の操作を行う。

白玉と赤玉の個数の和と同じ個数の赤玉を加え、続いて白玉の個数を2倍にし、さらに白玉を3個加える

はじめに袋の中に白玉が a_1 個、赤玉が b_1 個入っているとし、 $n-1$ 個の操作を行ったあとの、袋の中の白玉の個数を a_n 、赤玉の個数を b_n とすると、 $b_1=3$ 、 $b_2=7$ であるとき、次の問に答えよ。

- (1) a_{n+1} 、 b_{n+1} を a_n 、 b_n を用いて表し、 a_1 の値を求めよ。
- (2) 数列 $\{a_n\}$ の一般項を求めよ。
- (3) 数学的帰納法を用いて

$$b_n = (n-1) \cdot 2^n + 3 \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

が成り立つことを証明せよ。

3 曲線 $y = \tan \frac{x}{4}$ ($0 \leq x < 2\pi$) を C とし、曲線 C 上の点 $(\pi, 1)$ における接線を l とする。次の問に答えよ。

- (1) 直線 l の方程式を求めよ。
- (2) 曲線 C と直線 l および x 軸で囲まれた図形の面積を求めよ。
- (3) (2) の図形を、 x 軸の周りに 1 回転させてできる立体の体積を求めよ。

4

$$\alpha = \frac{\sqrt{2}}{2}(1+i), \quad \beta = -\frac{1}{2}(1-\sqrt{3}i)$$

とすると、次の問に答えよ。

- (1) α , β および $\frac{\beta}{\alpha}$ の極形式を求めよ。
- (2) $\alpha^n = \beta^n$ を満たす自然数 n のうち、最小のものを N とする。 N の値を求めよ。
- (3) (2) の N について、 n が N 未満の自然数を動くとき、 $|\alpha^n - \beta^n|^2$ の最小値を求めよ。また、最小値をとるときの n の値をすべて求めよ。

5 関数 $f(x) = x^3 - 6x^2$ と、 $y = f(x)$ で表される曲線 C について、次の間に答えよ。

- (1) 関数 $f(x)$ の増減を調べ、その極値を求めよ。また、曲線 C の概形をかけ。
- (2) 曲線 C 上の点 $(1, -5)$ における接線の方程式を求めよ。また、接線と曲線 C で囲まれた図形の面積を求めよ。
- (3) 曲線 C の点 $(t, f(t))$ における接線が $(0, a)$ を通るとき、 a を t を用いて表せ。また、曲線 C に点 $(0, a)$ から 3 本の接線を引くことができるための、 a についての条件を求めよ。

6 細胞 A は 1 分ごとに 4 倍に増殖し、細胞 B は 1 分ごとに 5 倍に増殖する。次の間に答えよ。ただし、 $\log_{10} 2 = 0.3010$ 、 $\log_{10} 3 = 0.4771$ とする。

- (1) $\log_{10} 4$ 、 $\log_{10} 5$ 、 $\log_{10} 6$ の値を求めよ。
- (2) 1 個の細胞 A を培養するとき、 m 分後に A の個数が初めて 10^{10} 個以上になったとする。このとき、自然数 m の値を求めよ。
- (3) 16 個の細胞 A と 1 個の細胞 B を培養するとき、 n 分後に A と B の個数の和が初めて 10^{10} 個以上になったとする。このとき、自然数 n の値を求めよ。

解答例

1 j 人で1回のじゃんけんをして k 人残る確率を $\binom{j}{k}$ とする.

$$\binom{4}{4} = \left(3 + 3 \cdot \frac{4!}{2!1!1!}\right) / 3^4 = \frac{13}{27},$$

$$\binom{4}{3} = \binom{4}{1} = 3 \cdot \frac{4!}{3!1!} / 3^4 = \frac{4}{27}, \quad \binom{4}{2} = 3 \cdot \frac{4!}{2!2!} / 3^4 = \frac{2}{9},$$

$$\binom{3}{3} = \frac{3+3!}{3^3} = \frac{1}{3}, \quad \binom{3}{2} = \binom{3}{1} = 3 \cdot \frac{3!}{2!1!} / 3^3 = \frac{1}{3},$$

$$\binom{2}{2} = \frac{3}{3^2} = \frac{1}{3}, \quad \binom{2}{1} = \frac{3 \cdot 2!}{3^2} = \frac{2}{3}$$

$$(1) \binom{4}{1} = \frac{4}{27}$$

$$(2) \binom{4}{4} = \frac{13}{27}$$

(3) 2回目のじゃんけんで1人だけが勝つ事象を A とし, 1回目のじゃんけんで2人だけが勝つ事象を B とすると

$$\begin{aligned} P(A) &= \binom{4}{4} \binom{4}{3} + \binom{4}{3} \binom{3}{2} + \binom{4}{2} \binom{2}{1} \\ &= \frac{13}{27} \times \frac{4}{27} + \frac{4}{27} \times \frac{1}{3} + \frac{2}{9} \times \frac{2}{3} = \frac{196}{27^2}, \end{aligned}$$

$$P(A \cap B) = \binom{4}{2} \binom{2}{1} = \frac{2}{9} \times \frac{2}{3} = \frac{4}{27}$$

したがって, 求める条件付き確率は

$$P_A(B) = \frac{P(A \cap B)}{P(A)} = \frac{4}{27} / \frac{196}{27^2} = \frac{27}{49}$$



2 (1) 条件から $a_{n+1} = 2a_n + 3$

$$b_{n+1} = b_n + (a_n + b_n) \quad \text{ゆえに} \quad b_{n+1} = a_n + 2b_n$$

$b_2 = a_1 + 2b_1$ に $b_1 = 3, b_2 = 7$ を代入すると

$$7 = a_1 + 2 \cdot 3 \quad \text{これを解いて} \quad a_1 = 1$$

(2) (1) の結果から $a_{n+1} + 3 = 2(a_n + 3)$

$\{a_n + 3\}$ は, 初項 $a_1 + 3 = 1 + 3 = 4$, 公比 2 の等比数列であるから

$$a_n + 3 = 4 \cdot 2^{n-1} \quad \text{ゆえに} \quad a_n = 2^{n+1} - 3$$

(3) (*) $b_n = (n-1) \cdot 2^n + 3 \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$

[1] $n = 1$ のとき, $b_1 = (1-1) \cdot 2^1 + 3 = 3$ であるから, (*) は成立する.

[2] $n = k$ のとき, (*) が成立する仮定すると

$$b_k = (k-1) \cdot 2^k + 3$$

(1) の漸化式および (2) の結果から

$$\begin{aligned} b_{k+1} &= a_k + 2b_k \\ &= 2^{k+1} - 3 + 2\{(k-1) \cdot 2^k + 3\} \\ &= k \cdot 2^{k+1} + 3 \end{aligned}$$

したがって, $n = k+1$ のときも (*) は成立する.

[1], [2] より, すべての自然数 n について, (*) は成立する.

補足 (1), (2) の結果から $b_{n+1} = 2^{n+1} - 3 + 2b_n$

$$\frac{b_{n+1}}{2^{n+1}} - \frac{b_n}{2^n} = 1 - 3 \left(\frac{1}{2} \right)^{n+1}$$

$$n \geq 2 \text{ のとき} \quad \sum_{k=1}^{n-1} \left(\frac{b_{k+1}}{2^{k+1}} - \frac{b_k}{2^k} \right) = \sum_{k=1}^{n-1} \left\{ 1 - 3 \left(\frac{1}{2} \right)^{k+1} \right\}$$

$$\frac{b_n}{2^n} - \frac{b_1}{2} = (n-1) - \frac{3}{2} \left(1 - \frac{1}{2^{n-1}} \right)$$

上式は, $n = 1$ のときも成立するから, $b_1 = 3$ を代入して整理すると

$$\frac{b_n}{2^n} = (n-1) + \frac{3}{2^n} \quad \text{ゆえに} \quad b_n = (n-1) \cdot 2^n + 3$$



3 (1) $C: y = \tan \frac{x}{4}$ より $y' = \frac{1}{4 \cos^2 \frac{x}{4}}$

$x = \pi$ のとき, $y' = \frac{1}{2}$ であるから, C 上の点 $(\pi, 1)$ における接線 l は

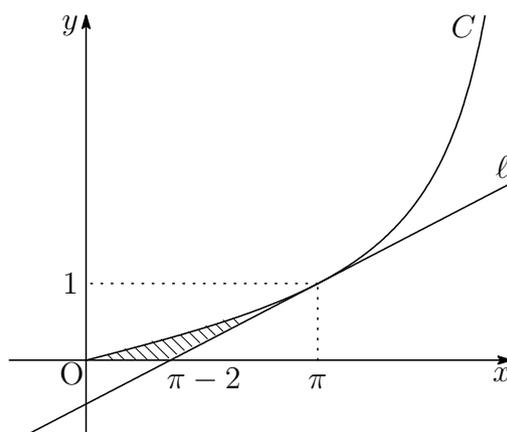
$$y - 1 = \frac{1}{2}(x - \pi) \quad \text{すなわち} \quad y = \frac{1}{2}x - \frac{\pi}{2} + 1$$

(2) 直線 l の x 軸との共有点の x 座標は

$$0 = \frac{1}{2}x - \frac{\pi}{2} + 1 \quad \text{これを解いて} \quad x = \pi - 2$$

求める面積を S とすると

$$\begin{aligned} S &= \int_0^{\pi} \tan \frac{x}{4} dx - \frac{1}{2} \{ \pi - (\pi - 2) \} \cdot 1 \\ &= \left[-4 \log \cos \frac{x}{4} \right]_0^{\pi} - 1 = 2 \log 2 - 1 \end{aligned}$$



(3) 求める回転体の体積を V とすると

$$\begin{aligned} V &= \pi \int_0^{\pi} \tan^2 \frac{x}{4} dx - \frac{1}{3} \pi \cdot 1^2 \{ \pi - (\pi - 2) \} \\ &= \pi \int_0^{\pi} \left(\frac{1}{\cos^2 \frac{x}{4}} - 1 \right) dx - \frac{2}{3} \pi \\ &= \pi \left[4 \tan \frac{x}{4} - x \right]_0^{\pi} - \frac{2}{3} \pi \\ &= \frac{10}{3} \pi - \pi^2 \end{aligned}$$

■

4 (1) $\alpha = \frac{\sqrt{2}}{2}(1+i)$, $\beta = -\frac{1}{2}(1-\sqrt{3}i)$ より

$$\begin{aligned}\alpha &= \frac{1}{\sqrt{2}} + \frac{1}{\sqrt{2}}i = \cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4}, \\ \beta &= -\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i = \cos \frac{2}{3}\pi + i \sin \frac{2}{3}\pi, \\ \frac{\beta}{\alpha} &= \cos \left(\frac{2}{3}\pi - \frac{\pi}{4} \right) + i \sin \left(\frac{2}{3}\pi - \frac{\pi}{4} \right) \\ &= \cos \frac{5}{12}\pi + i \sin \frac{5}{12}\pi\end{aligned}$$

(2) $\alpha^n = \beta^n$, すなわち, $\left(\frac{\beta}{\alpha}\right)^n = 1$ を満たす自然数 n は, (1) の結果から

$$\frac{5}{12}n\pi = 2k\pi \quad \text{ゆえに} \quad \frac{5n}{24} = k \quad (k \text{ は整数})$$

上の第2式を満たす自然数 n は, 24 の倍数であるから, これを満たす最小の自然数 N は

$$N = 24$$

(3) $\theta = \frac{5n}{12}\pi$ とし, $z = \left(\frac{\beta}{\alpha}\right)^n = \cos \theta + i \sin \theta$ とおくと, $|\alpha| = 1$ より

$$\begin{aligned}|\alpha^n - \beta^n|^2 &= |\alpha|^{2n} |1 - z|^2 = |1 - (\cos \theta + i \sin \theta)|^2 \\ &= |(1 - \cos \theta) + i(-\sin \theta)|^2 = (1 - \cos \theta)^2 + (-\sin \theta)^2 \\ &= 2(1 - \cos \theta) = 2 \left(1 - \cos \frac{5n}{12}\pi \right) = 4 \sin^2 \frac{5n}{24}\pi\end{aligned}$$

上式が最小値をとるときの整数 n は $5n \equiv \pm 1 \pmod{24}$

$$5 \cdot 5n \equiv \pm 5 \cdot 1 \quad \text{ゆえに} \quad n \equiv \pm 5 \pmod{24}$$

これを満たす 24 未満の自然数 n は $n = 5, 19$

このとき, 最小値は

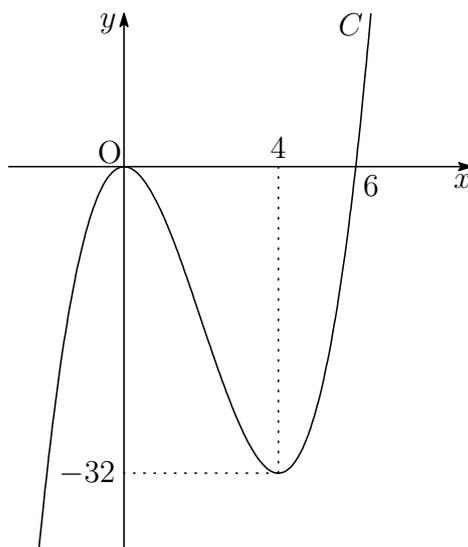
$$\begin{aligned}2 \left(1 - \cos \frac{5 \cdot 5}{12}\pi \right) &= 2 \left(1 - \cos \frac{5 \cdot 19}{12}\pi \right) = 2 \left(1 - \cos \frac{\pi}{12} \right) \\ &= 2 \left(1 - \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{4} \right) = \frac{4 - \sqrt{6} - \sqrt{2}}{2}\end{aligned}$$



- 5 (1) $f(x) = x^3 - 6x^2$ より $f'(x) = 3x^2 - 12x = 3x(x - 4)$
 $f'(x) = 0$ とすると $x = 0, 4$

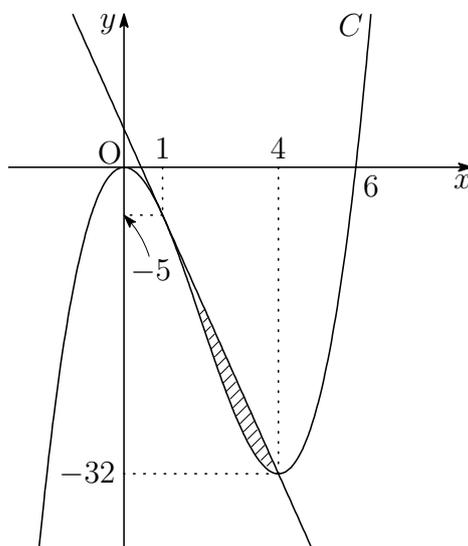
x	...	0	...	4	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	0	↘	-32	↗

よって、 $x = 0$ で極大値 0 、 $x = 4$ で極小値 -32 をとる.



(2) $f(1) = -5$, $f'(1) = -9$ であるから, 求める接線の方程式は

$$y + 5 = -9(x - 1) \quad \text{すなわち} \quad y = -9x + 4$$



$y = x^3 - 6x^2$ と $y = -9x + 4$ の 2 式から y を消去すると

$$x^3 - 6x^2 = -9x + 4 \quad \text{ゆえに} \quad (x - 1)^2(x - 4) = 0$$

これを解いて $x = 1, 4$

求める面積を S とすると

$$\begin{aligned} S &= \int_1^4 \{(-9x + 4) - (x^3 - 6x^2)\} dx \\ &= \int_1^4 (x - 1)^2(4 - x) dx \\ &= \frac{2!1!}{4!} (4 - 1)^4 dx = \frac{27}{4} \end{aligned}$$

補足 積分公式¹

$$\int_{\alpha}^{\beta} (x - \alpha)^m (\beta - x)^n dx = \frac{m!n!}{(m + n + 1)!} (\beta - \alpha)^{m+n+1}$$

¹http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_tech.2010.kouki.pdf の 1 を参照.

(3) 曲線 C 上の点 $(t, f(t))$ における接線の方程式は

$$y = (3t^2 - 12t)(x - t) + t^3 - 6t^2$$

これが点 $(0, a)$ を通るとき $a = -2t^3 + 6t^2 \dots (*)$

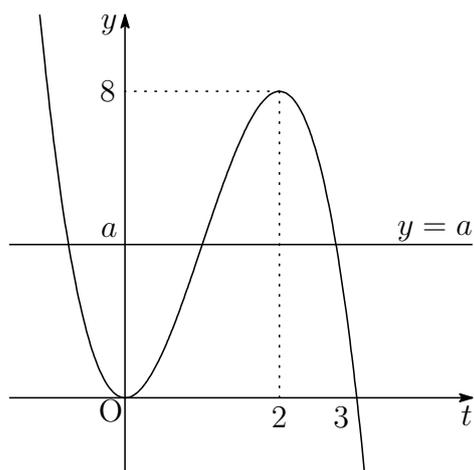
方程式 $(*)$ が異なる 3 つの実数解, すなわち, 曲線 $y = -2t^3 + 6t^2$ と直線 $y = a$ が異なる 3 つの共有点をもつから

$$y' = -6t^2 + 12t = -6t(t - 2)$$

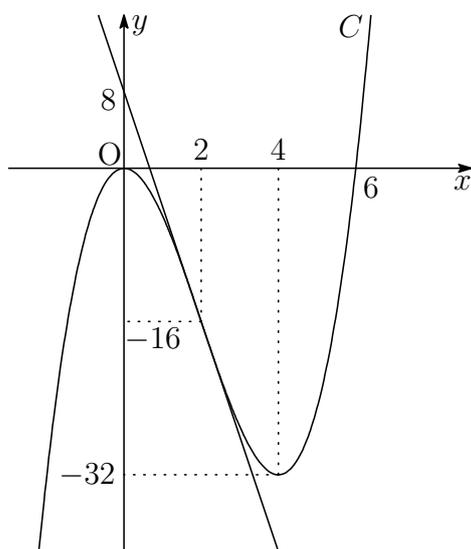
$y' = 0$ とすると $t = 0, 2$

t	...	0	...	2	...
y'	-	0	+	0	-
y	↘	0	↗	8	↘

したがって, 条件を満たす a の値の範囲は $0 < a < 8$



補足 C 上の変曲点 $(2, -16)$ で接線を引くとよい².



²http://kumamoto.s12.xrea.com/N/CHdai/CHdai_2017.pdf 6

6 (1)

$$\log_{10} 4 = 2 \log_{10} 2 = 2 \times 0.3010 = \mathbf{0.6020},$$

$$\log_{10} 5 = \log_{10} \frac{10}{2} = 1 - \log_{10} 2 = 1 - 0.3010 = \mathbf{0.6990},$$

$$\log_{10} 6 = \log_{10} 2 + \log_{10} 3 = 0.3010 + 0.4771 = \mathbf{0.7781}$$

(2) m 分後の細胞 A の個数は 4^m

この個数が 10^{10} 個以上となるとき $4^m \geq 10^{10}$

$$\log_{10} 4^m \geq \log_{10} 10^{10} \quad \text{ゆえに} \quad m \log_{10} 4 \geq 10$$

$$\text{したがって} \quad m \geq \frac{10}{\log_{10} 4} = \frac{10}{0.6020} = 16.6 \dots$$

よって、求める最小の整数 m は $\mathbf{m = 17}$

(3) n 分後の A と B の個数の和は $16 \cdot 4^n + 5^n$

$$16 \cdot 4^n + 5^n \geq 10^{10} \quad (*)$$

を満たす最小の自然数 n を求めればよい。

$16 \cdot 4^n + 5^n > 5^n$ であるから、不等式 $5^n < 10^{10}$ を解くと

$$n < \frac{10}{\log_{10} 5} = \frac{10}{0.6990} = 14.3 \dots$$

これを満たす自然数 n は $n \leq 14 \quad \dots \textcircled{1}$

$16 \cdot 4^n + 5^n < 24 \cdot 5^n + 5^n = 5^{n+2}$ であるから、不等式 $5^{n+2} > 10^{10}$ を解くと

$$n > \frac{10}{\log_{10} 5} - 2 = \frac{10}{0.6990} - 2 = 12.3 \dots$$

これを満たす自然数 n は $n \geq 13 \quad \dots \textcircled{2}$

$\textcircled{1}$, $\textcircled{2}$ より, $(*)$ を満たす自然数 n の必要条件は $13 \leq n \leq 14$

$$16 \cdot 4^n + 5^n = 5^n \left\{ 16 \left(\frac{4}{5} \right)^n + 1 \right\}, \quad \left(\frac{4}{5} \right)^4 = \frac{256}{625} < \frac{1}{2},$$

$$16 \left(\frac{4}{5} \right)^n < 16 \left(\frac{4}{5} \right)^8 = 16 \left\{ \left(\frac{4}{5} \right)^4 \right\}^2 < 16 \left(\frac{1}{2} \right)^2 = 4$$

$16 \cdot 4^n + 5^n < 5^n(4 + 1) = 5^{n+1}$ であるから、不等式 $5^{n+1} > 10^{10}$ を解くと

$$n > \frac{10}{\log_{10} 5} - 1 = \frac{10}{0.6990} - 1 = 13.3 \dots$$

これを満たす自然数 n は $n \geq 14 \quad \dots \textcircled{3}$

$\textcircled{1} \sim \textcircled{3}$ より、求める自然数 n は $\mathbf{n = 14}$ ■